

故 小野寺 仁さんへ捧げる「慰霊の詞」

小野寺 仁さん、今年もあなたの尊い命が失われた悲しい日がめぐってまいりました。

本日ここに県教育委員会の先生、本校教職員、本校に関わりのある方々、並びに生徒自治会執行部が参列して慰霊の式を催行するにあたり、代表して慰霊の詞を述べさせていただきます。

仁さん、あなたは、生徒が安全安心な生活を送ることを保証されているはずの学校において、洋々たる前途を突如絶たれました。その無念さ、そしてご家族の皆様の悲しみに思いを致すとき、申し上げる言葉も見つからず、ただひたすらにご冥福をお祈り申し上げるばかりです。あなたの御霊をお慰めするために、今後私たちにできますことは、飯田高等学校に関わる全ての者が深い反省のもとに事件の教訓に学ぶことのほかにありません。

平成四年以来、わたくしども教職員は、安全安心な学校づくりのため、たえず検証するべき責務を負い、日々取り組んでまいりました。これからも安全配慮義務、指導監督義務を果たすべく、努力してまいります。

また、生徒自治会は「高松 92 宣言」において「規律ある学窓」「反暴力」を謳っています。この「高松 92 宣言」を、機会あるたびにみなで確認し、共有していかなければならないと思っています。

仁さん、思い起こせばあの悲しい出来事から三十四年が経過しました。当時の在校生がすでに五十歳を過ぎたことを考えると、時の流れを感じざるをえません。しかし、どんなに長い時間が経過しようとも、この悲しい出来事を決して風化させることがあってはならないとの決意を新たにしています。加えてこの悲しい出来事の反省として私たちが固く誓った「安全安心な学校づくり」や生徒自治会の「高松 92 宣言」も引き続きしっかりと堅持していくこともここに誓います。どうか、これからも飯田高等学校の今後を見守ってください。

最後に、私達参列者すべての深い反省と決意、そして祈りと鎮魂の思いが、亡き仁さんの御霊に届くことを衷心より祈念して、慰霊の詞といたします。

令和八年一月八日

長野県飯田高等学校
職員一同
代表 服部靖之